

仙台空港の経営改革に関する宮城県基本方針の概要

第1 策定の趣旨

【背景】

- 国の空港経営改革の動き
- 国管理の仙台空港の活性化により、復興の起爆剤へ
- 「地域活性化の核となる真に魅力のある空港の実現」は、国と民間（空港運営権者）のみならず、県を始めとする地域の連携が不可欠

【目的】

- 仙台空港の経営改革に関し、県の基本的考え、民間（空港運営権者）への期待、国への要望を示すもの

第2 仙台空港の現状

【概要】

- 旅客数、貨物取扱量とも年々減少
(H18) 339万人→(H21) 280万人、(H12) 2.4万トン→(H21) 1.4万トン
- 震災で甚大な被害→半年後に空港ビル復旧・国際便再開→復興の象徴

【特徴】

- ①3,000m滑走路等恵まれた空港施設、②政令市仙台・東北各地にアクセス至便、③後背圏に多彩な観光資源、④豊富な食材と産業集積、⑤空港周辺地域に開発可能な土地の存在

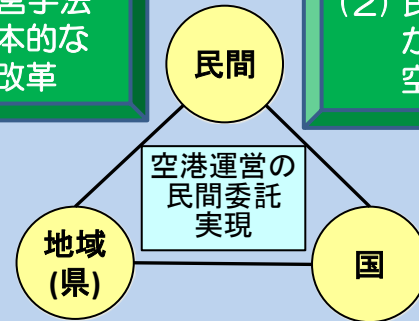
第3 仙台空港のあるべき姿

- (1) 多くの旅客や貨物でにぎわう空港
- (2) 東北地方の復興と発展をけん引する空港
- (3) 民間の力を活用した地域と共に発展する空港

第4 仙台空港の経営改革の実現に向けて

(1) 民間の経営手法による抜本的な空港経営改革

(2) 民間、国、地域が一体となった空港経営



第5 空港運営権者への期待

- 民間の知恵を最大限に生かした航空旅客及び航空貨物の増大
➡ **600万人/年・5万トン/年**
- 航空系事業及び非航空系事業の全体最適化
- 国や地域と協力・協調した空港経営など

第6 国への要望

- 空港運営権者の顧客志向に基づく経営戦略の尊重
- 空港経営改革の制度設計及び事業者選定への県の意向の反映
- リスク・コスト分担の明確化
- 空港運営の継続性の確保 など

第7 県の取組

- 仙台空港の経営改革に向けた関係者との対話及び調整
- 空港運営権者や国と協力・協調した空港経営のための環境づくり
- 航空需要の喚起・創出 など